

## 2020年11月15日 説教「ユダの信仰による訴え」

創世記 44章 18～34節

ベニヤミンの袋に銀の杯があったことで、彼らはヨセフの家にもどされます。そして再び、宰相ヨセフの前に立たされることになりました。

### 1. 弟を連れて来にくい事情 (18～22節)

①ヨセフの前で (18)「すると、ユダが彼に近づいて言った。『あなたさま。どうかあなたのしもべの申し上げることには耳を貸してください。あなたはパロのようなお方なのですから。』」ヨセフにとがめられて、兄弟達は身をすくめたことでしょうか。代表して宰相の前にユダが身を低くし、耳を貸して下さい。お怒りにならないで下さいとお願いしたのです。

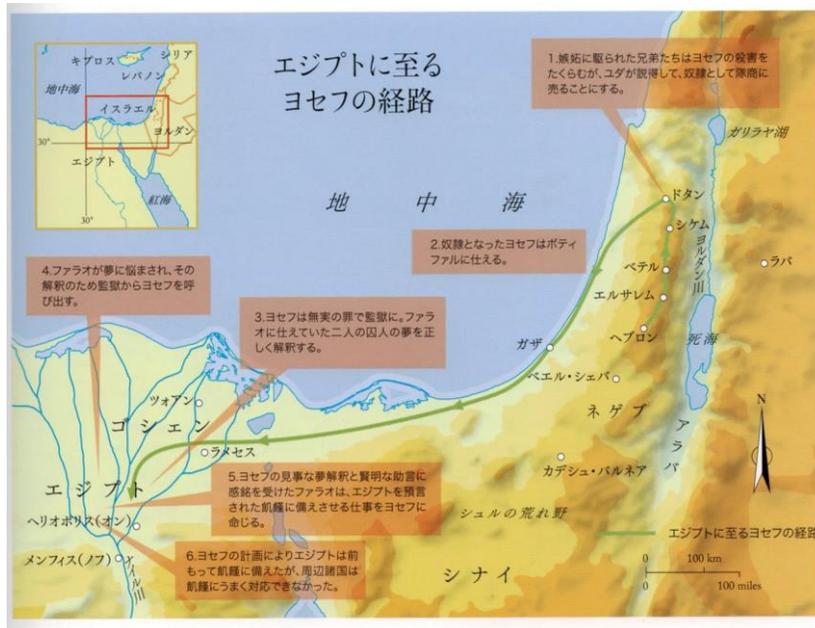
②父と弟について (19～20)「あなたさまは、しもべどもに、あなたがたに父や弟があるかとお尋ねになりました。それで、私たちはあなたさまに、『私たちには年老いた父と、年寄り子の末の弟がおります。そしてその兄は死にました。彼だけがその母に残されましたので、父は彼を愛しています。』と申し上げました。」ユダは事実を振り返りました。まずは宰相が、父や弟のことを尋ねたこと。それに対して、父と末の弟がいること。母を同じにする死んだ兄(ヨセフのこと)と末子(ベニヤミン)がいて、父が彼を格別に愛していると伝えた事も確認。

③難しい課題 (21-22)「するとあなたは、しもべどもに、『彼を私のところに連れて来い。私はこの目で彼を見たい。』とされました。それで、私たちはあなたさまに、『その子は父親と離れることはできません。父親と離れたら、父親は死ぬでしょう』と申し上げました。」その時に、宰相が末子に会いたいので連れて来いと言われたのに対し、兄弟達は、父が離さないし、離れたら、失望して死ぬだろうと伝えたことも確認しました。つまりそれが難題なのだと言ったのです。

### 2. 宰相ヨセフの意向 (23～29節)

①父に伝えた事 (23-24)「しかし、あなたはしもべどもに言われました。『末の弟といっしょに下って来なければ、二度とあなたがたは私の顔を見ることはできない。』それで、私たちは、あなたのしもべである私の父のもとに帰った時、父にあなたさまのおことばを伝えました。」兄弟たちの家庭の事情は考慮されず、今度来る時には末子を持ってくること、さもなければ宰相には会えないこと、これらを帰国した時に、父ヤコブに伝えたと、報告したのです。

②弟と伴っていかねば (25-26)「それから私たちの父が、『また行って、われわれのために少し食糧を買って来てくれ』と言ったので、私たちは『私たちは下っていくことはできません。もし、末の弟が私たちといっしょなら、私たちは下っていきます。というのは、末の弟



といっしょでなければあの方の顔を見ることはできないのです。』と答えました。」報告は続きます。さて、しばらくして食糧も少なくなり、父ヤコブが再度エジプトに行って食糧調達を私達に要請しましたので、末の弟と一緒になければあなた様の顔を見ることはできないと言ったのですと伝えたことでした。

- ③ラケルの二人の子 (27-29)「すると、あなたのしもべである私の父が言いました。『あなたがたも知っているように、私の妻はふたりの子を産んだ。そしてひとり私は私のところから出て行ったきりだ。確かに裂き殺されてしまったのだ、と私は言った。そして、それ以来、今まで私は彼を見ない。あなたがたがこの子を私から取ってしまって、この子にわざわいが起こるなら、あなたがたは、しらが頭の私を、苦しみながらよみに下らせることになるのだ。』」父もその胸の内をあかしたのです。末子ベニヤミンと母(ラケル)が同じ兄は命を落としてしまったようであるし、今ベニヤミンまでも失うようなことがあれば、白髪の老人は死ぬしかないというのです。

### 3. ベニヤミンの代わりに (30~34 節)

- ①父は死んでしまう (30-31)「私が今、あなたのしもべである私の父のもとへ帰ったとき、あの子が私たちといっしょにいなかったら、父のいのちは彼のいのちにかかっているのですから、あの子がいないのを見たら、父は死んでしまうでしょう。そして、しもべどもが、あなたのしもべであるしらが頭の私たちの父を、苦しみながら、よみに下らせることとなります。」そんなことですから、もし仮に私たちが末子(ベニヤミン)を伴わずに帰国したとするなら、父は絶望することでしょう。その結果、その辛さから命を落としてしまうかもしれません。
- ②父との約束 (32)「**というのは、このしもべは私の父に、『もし私があの子をあなたのところに連れ戻さなかったら、私は永久にあなたに対して罪ある者となります。』**と言って、あの子の保証をしているのです。」こちら(エジプト)に来る前に、父親にはもし末子(ベニヤミン)を連れて帰らないようなことがあれば、私(ユダ)が永久に父ヤコブに対して、罪ある者となるというほどに、あの弟の事については私が保証をしているのです。
- ③私をあなたの奴隷に (33~34)「**ですから、どうか今、このしもべを、あの子の代わりに、あなたさまの奴隷としてとどめ、あの子を兄弟たちと帰らせてください。あの子が私といっしょでなくて、どうして私は父のところへ帰れましょう。私の父に起こるわざわいを見たくありません。』**」そんなこともありますから、あの弟の代わりに、しもべである私(ユダ)を、あなたさまの奴隷としてください。そして、あの子についてはぜひ他の兄弟達といっしょに帰らせてあげてください。ともかくも、あの子と一緒になければ、私は決して帰

国できません。ベニヤミンが帰らなければ、父の命もどうなるかわからないのですから、とユダは訴えかけました。

### 《結論》

聖書の中には「ユダ」という名前は一般的です。イエスの兄弟の中にもユダがいます。イエスの弟子にもイエカリオテのユダがいます。旧約聖書に出て来るユダのなかで、重要なのはヤコブの四番目の子供のユダでしょう。今朝学んでいるその人です。彼はヤコブの妻レアとの間に生まれました。ヨセフが兄弟達によって穴に入れられた時に、彼を殺すのではなく、隊商達に売ることを提案した人です。また、38章には嫁タマルに対してなした行動は卑劣ですが、隠されずに記事となっています。

そんな彼の人生において、最も大きな出来事が今朝の個所ではないでしょうか。ユダは心を裸にして、ありのままを語って、なんとかして、弟のベニヤミンをお父さんの所に連れて帰ろうとする、真実な思いが伝わってきます。今さら隠し立てをしたところで、どうにかなるわけではありません。彼は自分なりに経験したことを順番に細かく伝えていったのです。そこには、父への愛情、ベニヤミンへの配慮、そして売ってしまっただけのヨセフになした罪の自覚が、込められています。

彼の訴えはなぜ心を打つのでしょうか。それは、お父さんとの約束に基づいておきました。カナンの地のお父さんの所に、なんとしてもベニヤミンを帰さなければなりません。そのためには、自らはその身代わりになり、奴隷になると申し出ているのです。彼はその残りの人生は奴隷として生きる覚悟を持ったのです。保身の思いはありませんでした。

はからずも、ユダの家系をたどっていくと、肉の家族であるお父さんであるヨセフまでつながっていくのです。そして、その家の子として、聖霊によって身ごもった御子イエス・キリストが誕生するのです。その方こそ私たちの罪の身代わりとして、十字架にかかってくださった愛の主です。身代わりの主の系図には、ここで身代わりをも辞さなかったユダの名前が出てきます。

ユダは信仰においても、このエジプトへの二度の旅を通して成長を与えられています。ちょうど、エサウを裏切って北の地に向かった時に、信仰体験を与えられたユダの父ヤコブを思い出します。ベテルと名づけられたその場所で、ヤコブは石を枕にして眠ったのです。夢のなかで、天につながるはしごがかけられて、天使が上り下りし、アブラハム、ヤコブの神である主は彼に祝福の約束をくださったのです(28章)。今朝の聖書箇所におけるユダも主からの迫りがあって、主によって心砕かれて(詩篇 51:17)、ヨセフの前に真実の訴えをしたのです。その面では、ユダにとっての信仰体験の日でもあったといえましょう。

讚美歌 320 番を歌いつつ、ヤコブの信仰に思いをはせつつ、ユダにも

与えられたその信仰を私たちも与えられるためにも、自らの罪の悔い改めの思いをもって主の前に出ていきたいと思えます。